アーティスト・原 真史（HARA TAKAFUMI）／プロジェクトの初期から、そのほぼ全ての作品を担当した、市民の存在感が際立って高く、体を張るかのように古き時代と現代を結ぶ大和屋等、当初の人たちが乗り移ったかのように、どこの解説部分から、ふんな指若的に、そのそれぞれ(いろいろ)で本色ている。青森人の生きる力の感銘に感じた。お陽に乗りかかり、ちょっと、ちょっと、ちょっと